

二〇二四年八月九日

妹が欲しと願ふ子星祭り
曾孫らの仕切るに任せ墓洗ふ
老犬の深く息吸ふ今朝の秋
月仰ぐ所作うつくしき踊りの手
仕舞屋の秋の風鈴鳴りやまず
ファイナーレのスターマインや大花火

二〇二四年八月八日

日に遊ぶ切子の翳や卓涼し
新涼や今朝の目覚めの大背伸び
白菊の慰霊の花火闇に浮く
オムレッツに朝採れトマトトッピング
白靴で玄関を出る身の軽し
孫ら来る巨大サンダル脱ぎ散らし
水撒けば三和土の匂ふ土間涼し

二〇二四年八月七日

サングラスしたまま浴ぶるミストかな
夜の更けて風鈴チリンと鳴りにけり
馬つなぎ残る城址や蝉時雨

二〇二四年八月六日

せせらぎを小突きやまずよ糸蜻蛉
遠泳の波間に遠き烏帽子岩
大鹿の彼方をみやる眼の涼し
幾重にも連鎖して爆ず揚花火

二〇二四年八月五日

谷川の瀬音に肥ゆる青胡桃
観音の微笑み給ふ樹下涼し
浮き出づる水占いの文字涼し

二〇二四年八月四日

西瓜切り礼拝後の愛餐会
尖塔を過ぎる筋雲秋高し
卓涼し白布に並ぶカトラリー
三輪山を嵌めたる茅の輪潜りけり
夕焼けにグラス翳してワイン酌む

二〇二四年八月三日

身も灼くる花見小路の石畳
二三言蝉の寝言か真夜の庭
花水細りて宴果にけり
闇市の名残りの路地の暑さかな

風民

ぽんこ

明日香

あひる

康子

幸子

明日香

よし女

せいじ

あひる

ふさこ

澄子

毎日句会みのある選・二〇二四年八月二日

こすもす

うつき

むべ

澄子

澄子

明日香

むべ

きよえ

たか子

こすもす

うつき

もとこ

かえる

むべ

みきえ

なつき

風民

智恵子

風民

千鶴